

中部地区 公民館だより

第150号

令和5年8月1日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379

6月29日(木)、30日(金)、はこべの会で1日研修に出かけました。2班に分かれて、長井市の長井あやめ公園、長井駅、長井市役所を見学しました。梅雨の時季で、天気心配されましたが、1日目は真夏日、2日目は大雨と対照的になりましたが、予定通り研修できました。

久しぶりの
お出かけ
大満足



長井あやめ公園にて



長井市役所屋上にて

あやめ公園では、遅咲きの花々に迎えられ、ガイドさんの説明を聞きながら園内を回りました。近くにある總宮神社まで足を延ばし、直江兼続が戦勝を祈願して植えたと言われる立派な直江杉なども見学しました。午後からは、駅と市役所が繋がっている画期的な長井駅と長井市役所を案内していただきました。発想の素晴らしさと最新の建物に、「素晴らしいね。感動だわ」の連続で、総務課職員の方にたくさんの質問に答えていただき、興奮冷めやまぬまま帰路につきました。



ホタルのとくちょう

こうちょう先生と、やすし先生と、かぞくとも西山のほうにホタルを見にいきました。ホタルは、おしりを光らせる生き物です。気温が高いと、ホタルは、たいてい、上にとんでいます。だけど、気温がひくいと、くさっぱらの中とか、かげにいます。ホタルのおしりが光る理由は、けっこん相手を見つけるためです。ホタルは1しゅうかんから2しゅうかんのあいだしか、とびまわることができません。だから、早くけっこんをしたいんだな。と思いました。上山とかのホタルは、3秒から4秒のあいだしか、おしりを光らせません！見のがしてしまうと、せっかくのチャンスが、もったいないです。そして、まるで星が動いているみたいでした。星が、下にいたり、上にとんでいたたり、すごくきれいでした。リーダーのまきのさんが、ぼうしに、ホタルをいれてくれて、体がよく見えました。しかも、すみれ(妹)とわたしがホタルを手のにせました。ぼうしの中でも、よく、みえたけど、もっときれいに、よく、みえたと思いました。かわいかったです！！

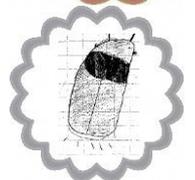
参加した村山凜さん(上山小3年)の作文より



街歩きウォーキング②西山
7/1(土) ホタル観賞



花にもとまっていた。



西山に向かって出発！

モルック講習会

7月7日(金)、多目的ホールにてかみのやまスポーツクラブ、齋藤武司さんを講師に迎え、モルック講習会を行いました。

はじめて手に取るという方も、何度か経験したことがあるという方も、最初は軽く投げていたようでしたが、回を重ねるうちにねらいをつけて投げるようになっていました。

ただ、モルック(木製の棒)を投げるので、ねらった場所とはまったくちがった場所にとんでいき、予想のつかないことがおきて、一投ごとに歓声やため息で会場はととにもぎやかでした。

自分で倒したスキttl(木製のピン)は、自分で起こさなければいけないので年齢、性別をとわず気軽に楽しめるスポーツでした。



事業所見学



消化体験



テラリウム

7月12日(水)、事業所見学で「山形市市民防災センター」と「Hutte & Moss Garden」に行ってきました。

防災センターでは、消火体験、地震体験、煙体験をしてきました。その他に119番受信側のビデオを見ることができました。

Moss Garden では苔テラリウムをつくりました。ガラス容器の中に苔、石、砂利、フィギュアなどで講師の指導を受けながら自分だけの世界をつくりあげました。

健康講座

花粉症、アレルギー性鼻炎について

7月20日(木)、多目的ホールにて山形大学医学部 耳鼻咽喉科 鈴木祐輔医師を講師に迎え、「花粉症、アレルギー性鼻炎について」の健康講座を開催しました。

専門用語を交えながらも、花粉症などの対処の仕方をわかりやすく説明していただきました。



山形大学医学部 耳鼻咽喉科 鈴木 祐輔医師



参加者募集

参加申込はすべて8月3日(木)、午前9時から受付できます。

フライングディスクと輪投げ大会

日時 8月23日(水) 午前9時20分受付開始 午前9時30分から正午
場所 生涯学習センター 体育館
講師 フライングディスク 笹原京子さん 輪投げ 佐竹絹子さん
対象 中部地区在住の方
募集人数 25人(定員になり次第締切ります)
申込締切 8月16日(水)
参加料 無料
持ち物 屋内シューズ、タオル、飲み物



文化財専門員の講話

日時 8月25日(金) 午前10時00分から午前11時30分
場所 中部地区公民館 多目的ホール
講師 荒木雄之文化財専門員
内容 「江戸時代の上山」
対象 中部地区在住の方
募集人数 20人(定員になり次第締切ります)
申込締切 8月21日(月)
参加料 無料
持ち物 飲み物(必要な方)、筆記用具



けん玉講習会

日時 9月10日(日) 午前10時00分から午前11時30分
場所 中部地区公民館 多目的ホール
講師 日本けん玉協会長井支部 支部長 齋藤直樹さん
対象 中部地区在住の方
募集人数 20人(定員になり次第締切ります)
申込締切 9月4日(月)
参加料 無料
持ち物 けん玉(お持ちの方)
飲み物(必要な方)



申込の際、けん玉の有無をお知らせください。
お持ちでない方には、貸し出し用のけん玉を準備します。

8月の予定

2日(水) 第1回地域づくり委員会(宝さがし)
23日(水) フライングディスクと輪投げ大会
25日(金) 文化財専門員の講話

*23日の午前中は職員不在になります

8月の百歳体操

3日、10日、24日、31日

8月のはこべの会サロンはお休みです

これからの予定

9月10日(日) けん玉講習会
13日(水) はこべの会 学習会
20日(水) はこべの会 サロン
26日(火) 街歩きウォーキング③
10月4日(水) 第2回地域づくり委員会
14日(土) 地域の宝さがしウォークラリー
23日(月) 街歩きウォーキング④
27日(金) 第2回公民館運営協議会
31日(火) 男の七宝焼

上記の参加申込みは、後日あらためて公民館だよりにて募集いたします
(都合により日程が変更になる場合があります)

藤井松平氏シリーズ3. 「松平信将侯」～2. 「見目原騒動の前夜」

前号で信将侯時代初めに疫病が流行るなか町方・在方に観音堂などが建立され地域民の絆が深まっていたことを紹介しました。しかし、1700年代前半の信将侯時代は疫病、天変地異があり、蝗・ウンカの害虫発生、大洪水、その結果米穀不作、結果として飢饉が続きました。

先ず寛保三年（1743）7月に、甲石村で大洪水が発生し、農家・田畑が洪水で荒らされました。単純な自然災害ではなく米増収のため新田畑を切り拓いた結果、山林原野の保水力が失われていったという背景が新しく指摘されています。

元禄を過ぎ八代将軍吉宗の享保の改革（1716～）の頃から武家が富商に比べ貧困化し末端の藩士たちの生活は質素を極めました。あろうことか9月に上山役所、賄い方鈴木某が賭博借金で行き詰まり切腹する事件が発生、二才の男の子は成人するまで身柄お預けとなりました。給金が少ない質素な生活に何らかの気惑いで博打をしたのでしょうか。年号改まって延享（1744）になり幕府は「古金（貨幣）」通用のお触れを発し、財政施策にあの手この手を講じます。

さて、先の北の甲石に続いて東郷村、南の金山村、榎下村などで山津波が発生、ご城下「三町共に一面に水押し入り」と領内一円大水が出ました。榎下村で一昨年本陣塩屋の土蔵解体調査が行われましたが、土蔵壁に出水被害のため造り替えたという棟梁墨跡があり、古記日記（⑰）の記録が明らかになりました。榎下村の山津波ばかりでなく、同時に前川上流の多雨で二日町、十日町、裏町、北町、新丁の大洪水被害の様子も綴られています。これは「関東、北国に山つなみ」「百年来の大変事」と続き記されています。領内では人足数千人が復旧にあたりました。緊急災害指定による財政出動です。しかし、この原資は役所備蓄から農民負担に変えられていきます。

延享元年（1744年）、延享2年（1745年）は凶作で、米価が高騰しました。幕府施策と諸藩の細かな関係事情をここで詳らかにすることは出来ませんが、「上山ご家中山下源治と申す侍

の弟で山下八弥という侍が身の上不如意につき江戸勤めかね（江戸詰めの暮らしぶりが思わしくなく）、国へ帰って兄の宅に身を寄せて金子才覚して再び江戸に上り候はんと心がけ」ていました。が、「その兄、才覚なく弟八弥は行き詰まって切腹」しました。弟の切腹叶わず兄源治が介錯、あろうことか遺骸を放置、ことが露見し取り調べとなりました。しかし、兄介錯せずとも死に果てたとの次第で、兄は「永のお暇下され山形領へ所払い」と締めくくられています。またことに前代末聞のこと、森鷗外著『高瀬舟』と同じ顛末の事件が世を覆っていました。

また、歴史の隘路というべき事もありました。享保年間、全国や福島で騒動が発生、その情報が出羽にも及んだのでしょう、山形城下でも事件が発生。延享三年（1746）5月、山形町民が二夜かけて談合し千人ほどが七日町、十日町、八日町の穀屋を襲撃、「家打ち毀し戸部を打ち破り、散々に打ち散らした」。ところが山形城主堀田正亮氏は老中に抜擢され下総佐倉（千葉）へ転封、配下家中は旅立ち途中で吉原村にいて、また次の領主松平乗佑氏は父乗邑が老中罷免で山形に国替となり、松平和泉守殿はまだ入部にならず市中取り締まり疎かでしたが、「松平家の町奉行は（先乗りしていたのか狼藉衆でなく当の）三軒の穀屋を呼び出し（呼び出さざるを得なくなっ）て、平日の心がけ宜しからずと穀屋を籠（牢）に入れた」と他領のことを書き（聞き）とどめています。

上山一大事件への伏線を見てきました。この後に「見目原一揆」を見ていきますが、上山諸資料は他国（山形藩など）とのつながりを多く書き記しはじめています。幕藩の平和も100年が経つと、消費者武家の財政収米の手立て、新田開発や新貨幣運用策など弥縫（修繕策）の手を打ちました。一方で自然災害が広く顕在化し上山での一大事件につながっていくことになるのです。

※参照文献：「上山市史」、「藤井御殿記」①、「上山年代略記」②、「上山郷土史」⑫、「上山三家見聞日記」⑰、「奥海道五巴」⑳などを参照しました。